

ご近所のお医者さん

□
655
□

浜崎医院長 **濱崎憲夫さん** 一大阪市住之江区

施設上手に使ってムリせず

浜崎医院の外来診療と、併設されている介護老人保健施設「はまさき」の高齢者健康管理の二足のわらじを履いた医師として15年以上がたちました。現在では、特別養護老人ホームも合わせて620

床になり、日々の高齢者の治療に携わっています。

なりたて医師として救急医療機関で研修していたある時、救命に成功した患者さんに外来通院でお会いしました。車椅子で通院されてきた患者さん

介護話し合う機会を

と、付き添うご家族には笑顔がありませんでした。後遺症によって介護が必要となり、老々介護の状態で、家族の負担が非常に大きくなっていました。患者さんも家族も救命後の方がも

になっていきます。「はまさき」に入所している方々の94%は、ここでのみとりを希望しておられます。時間に制限がある外来業務の終了後、施設で時間にとらわれずに入所者のお話を伺い、診察させてもらうことは、私の大好きな時間です。「医者と患者」ではなく、「人と人」とのつながりを実感できるからだと思います。

家族の介護、そしてご自身の介護、それは

っと大変であることを思い知らされ、大きな衝撃を受けたケースでした。

その経験から、日常生活を介護で支えながら医師として関わって、一人の患者さんを最期まで診たい思いが次第に強くなってきました。いまだに「老

必ずやってきます。みなさんには、今は介護が必要でなくても、慌てなくてよいように、今日から少しずつ先の介護について考えたり、家族で話し合ったりしていただければと思います。

健は3カ月しか入所できない」と思われていたことも多いようですが、制度も変わり、医療や介護の幅も広がり、ご本人やご家族の希望によっては施設で最期を迎えること(みとり)が可能

父の日、母の日があります。また誕生日もありませんよね。こういった記念日に介護のことを少しでも思い出しているだけで、忘れずに定期的に考えることができるのではないのでしょうか。

